



# みらいっうしん

2月号

2019年2月1日  
田園調布学園大学  
みらいこども園  
園長 長南 康子



## 子どもに残したい大切なこと

立春の時を迎え、穏やかな天気が続いています。私はこの時期、楽しみにしていることがあります。それは、きれいな富士山の姿を見ることです。冬の空気が冴え渡る日は、毎日、通勤で利用している埼京線のホームから、その雄姿を目にすることができます。東京の城北方面からも、どこからも広い範囲で望むことができることに感動します。

「あっ、富士山が見える！」「ほら！見て、富士山！」と富士山を見つけると、子どもや孫に知らせたくなる自分がいます。これは、私自身も子どもの頃ころから、「富士山が見える！」と言葉少なく、富士山の崇高さを教えてくれた山好きの父の影響だったのではないかと考えています。

皆さんは、目の前の子どもに残すことはありますか？改めて考えると、特別なことはなかなか思いつきません。しかし、親自身では意識していないことが、子どもに残っていくことがあるのでしょうか。物でも、人とかかわりにおいても、親が好きなこと、嫌いなこと、大切にしたいこと、こだわっていること、など、全ては子どもに影響を与えていくのだと思います。

先日、お母さんと一緒に仲良くプランターの球根の様子を見ていたAちゃんを見かけました。“そういえば、秋にきれいな落ち葉を一枚一枚大事そうに拾い集めていたけれど・・・お母さんも・・・草花が好き・・・だったのでですね。”と思いました。

親の価値観が、全て同じように、我が子に移ることはないと思いますが、子ども自身が目にしたこと、聞いたことを成長過程の中で無自覚に選択し、人格を形成していくのでしょうか。有形無形に残る、何かを自然に受け継いで、自分の道をつくっていくのだと思います。

先日、ある講演会記録を読んでいて、次のような文が心に残り、手帳に書き写しました。ご紹介します。『**大人が大人を見る目**』という一文です。大人が子どもを見る目ではないのです。私たちが家族の中で、職場の中で、大人同士、互いに相手をどう見るかということです。子どもは、大人同士のかかわり場面を、言葉にはしませんが、よく見ています。乳児も幼児もそれは敏感に感じているのだと思うとドキッとします。子どもに不安感を与える負の感情や場面の影響は大きいものと心に留める必要があります。しかし、感情の持ち方は、なかなか、難しく、簡単にはいかないこともありますね。

『大人が大人を見る目』はすぐ近くにいる人を尊重しながら接することと捉えます。大人同士が、相手の背景を想像する心をもって、穏やかな関係をつくるのが大事なのだと考えます。そのような大人の姿を子どもは、憧れをもって見ているのでしょうか。自分もそうなりたいと思うでしょう。この価値観も子ども達に伝えることができたならうれしいことです。修業は続きます。

(長南)

ほし組さんの前を通りかかると、保育者と一緒にオオカミになりきってポーズをとっている子ども達が見えました。

のぞいてみると、女兒が二人、にこにこしながらビニールシートを広げています。

どうやらオオカミが落ちる池を準備しているようです。その楽しそうな表情といたら！

役をやるのではなく、役になりきることの楽しさが全身からあふれ出ているように感じました。

子どもってすごいです。(主幹保育教諭：柳鶴)



オオカミの帽子